

スポーツと心臓リハビリ講座が開催されました

11月19日(金)当院において、「心臓病を患った方が『運動を通して』生活の質の向上と早期社会復帰を目指す！」と銘うった講座が開催されました。

講師には、オリンピック競歩金メダリストのハートヴィッヒ・ガウダー氏をお招きしました。ハートヴィッヒ・ガウダー氏は、競歩選手として数々の国際舞台で活躍し、引退後、突如心臓病に倒れましたが、心臓移植という大手術を経て奇跡的に回復を果たし、ニューヨークマラソン完走の快挙を成し遂げ、闘病生活とリハビリの経験から「パワーウォーキング」という運動法を考案しました。

会場は和気あいあいとした雰囲気終始し、ガウダー氏からパワーウォーキングを実際に指導していただくことができ、参加された皆さんにもわかりやすい楽しい講座でした。



ハートヴィッヒ・ガウダー氏



ガウダー氏と南院長

第6回臓器移植・市民公開講座が開催されました

11月20日(土)群馬会館に於いて、第6回臓器移植・市民公開講座「ハート to ハート」～助かる命を助けられる国に～が、当院と臓器移植患者団体連合会等の共催で開催されました。

当院南和友院長による開会の挨拶を皮切りに、第1部は旭川医科大学病院消化器病態外科教授の古川博之先生による「脳死ドナーからの臓器移植」というテーマでの講演、そして、北海道大学病院第一外科教授で「北海道移植者医療推進協議会」を設立された藤堂省先生から臓器移植の啓蒙活動についてのお話をいただきました。

第2部では歌手のさだまさしさんの名曲を交え、南和友院長らとの座談会で、「いのちの大切さ」について語っていただきました。さだまさしさんは南和友院長のご友人とのことで、仕事先の沖縄から駆けつけて下さいました。

第3部では熊本日赤病院心臓血管外科部長の小柳俊哉先生、移植体験者のハートヴィッヒ・ガウダー氏、他お二人の心臓移植体験者をまじえてお話をしていただきました。渡航し、ドナーを待ち続け、移植を受けるまでには、資金という物理的困難のみならず、想像を絶する精神的困難を乗り越えなければならなかった体験者の言葉は、胸に迫り来るものがありました。そして、皆さんが口々におっしゃっていたのは、移植後の人生が、「一人で生きている気がしない」「常に、誰かと一緒に生きている気がする」ということでした。

移植の大切さを知る機会を持って、大変有意義な講座となりました。

